

メンバーに聞く

国学院久我山高校ラグビー部現役時代の思い出・今

中村 誠監督 背番号・師範 (6期生)

12歳で小学校を卒業し、昭和24年春岩崎学園久我山中学校に入学、戦後の混乱から抜け出せぬ学園の経営難の時、昭和27年国学院大学との合併により「国学院大学久我山中学・高等学校」となる。

当時の久我山は、2階建の木造校舎が2棟あり、校舎にはP51の機銃掃射の弾痕が残っていた。夏になると校庭は草茫々となり、体育の時間は常に草取りであった

高校に入り、兄貴がラグビー部であったためか、友人関係であったか、理由は不明だがラグビー部に入った。同期の部員は10名ほどいたか？指導者もおらず、自分たちで勝手に「ラグビーらしきもの」をやっていた、仲良く遊んだ思いはあるが練習で苦労した思い出はない。(忘れてしまったのかもかもしれない)

当時の練習といえば先ずランパス、次いでスクラム、ラインアウトにスタート、フォローに揺さぶり、キックダッシュなどといった、今の練習と比較できない内容であった。キックダッシュ10本20本などと、ただ選手をいじめる為だけのことであった



(監督・コーチなど居なかったため、苦しいことはやらなかった・・・?)

今はルールが変わったことにより、各高校でスクラムの練習をあまりやらないようだが、スクラムだけは現在の練習に取り入れられるのではないか。

試合は千歳高校・豊多摩高校あたりとやったような気もするが、定かではない。

久我山を卒業、日体大に進学、本格的なラグビーの練習に接し、ラグビーとはこれ程までに「辛く・苦しく・大変なことなのだ！」ということを感じ知らされた訳で、日体大での4年間で強烈であったことと、教員になってからの思い出が多く、時間も長く(3年間対43年間)、その前の「高校時代」の印象があまりない。

我々がやっていた高校でのラグビーが「ラグビー遊び」であったと言う事であろう。

年に数回、OB会・同期会などに呼ばれ楽しい時間を過ごすが、思い出話などは皆私が教員になってからの話です。

今回「メンバーに聞く」第1回として「高校時代の話」なので、申し訳ないがこの程度しか書けません。

教員になってからの、全国大会に出るまでの、出てからの話なら、本になるほど有るが、簡単には書けないので、先ずは、[久我山高校ラグビー部OB会公式サイト](#)⇒[ラグビー部のあゆみ](#)⇒[OB通信アーカイブス](#)を見て下さい。久我山在任中OB・父母・中学の先生方に手書き(ガリ版印刷)で出していたOB通信1~100号の中から、34期 芳村正徳が抜粋して載せてくれたものです

平成25年3月

中村 誠